

<集中ウォーク2020>

■今年の集中ウォークは、コロナ感染防止のために密を避け、3カ所に分けて開催となりました■

・日 時:2020年11月21日(土) ・集合時間:14:00 ・天候:晴れ

〔集合場所と責任者〕

◎横浜地域=年臨港パーク(平嶋) ◎川崎地域=兵庫島公園(奥村) ◎湘南地域=茅ヶ崎里山公園(平山)

=参加者= 合計32名 (参加者名は前日の伝助より)

<横浜> 佐藤よ 平嶋 神谷 仲 大平 小林 島 吉岡 佐々木貴 佐々木忠 瀬波 計11名

<川崎> 熊坂 伊藤真 青松 佐藤繁 小島 栗田 奥村 平林 飯田 奈良(当日参加) 計10名

<湘南> 常盤 平石 高橋文 小野里 平山 河野 山内 市村 脇坂 野村 福士 計11名

.....
=川崎地域=

~~~~多摩川・兵庫島公園に集合!~~~~

《小島コース》 8000歩 約5.5km

■自宅→二ヶ領用水「竹橋」→第三京浜下→旧流路跡→大石橋→大山街道(ふるさと館)→高津図書館(国木田独歩碑)
→岡本かの子文学碑→二子橋→兵庫島公園(ゴール)

“小島城(自宅)”の外堀でもある二ヶ領用水、冬を前にして多摩川の水量が少なくなったせいか取水量も減り、この水の流れも寂しくなっていますが、水面ではカモやコサギがエサをついばみ、この川のヌシともいえる大きなコイ達も我が物顔で泳ぎ回っていました。少し前までは紅葉に包まれていた“大手口”の「竹橋」をスタート、いつもとは逆に一路上流を目指すことに。

昨日は暑いくらいでしたが、この日は朝から北の強風となり気温が下がりました。集合場所の兵庫島は、世田谷に居た頃にはよく訪れた場所で、子供時代には多摩川まで自転車を飛ばし、ウグイやアユを四手網で捕った思い出があります。

スタートするも強風と所要時間を甘く見てしまい、予定コースの一部をカットしたため距離が短くなってしまいました!



いつもの竹橋から12:30出発(出遅れ!)



門番はこの鳩。見送りご苦労!



外堀にある滝? (これ滝といえるのか...)



鴨のカップルも見送ってくれた。



この東屋は散歩する人の休憩場所となっている。



午後の陽射し溢れるニヶ領用水沿いの散歩道。



春はしだれ桜が満開の用水も晩秋は寂しい風景に。



旧流路跡は緑道となり子供たちの遊び場になっている。



こんな木々の間を流っていたのか。



用水沿いにはオアシスのセブンも。



白亜の教会が青空に映える。



強風にざわめく水面。



柳に風。幸いもう葉が殆ど落ちた。



大山街道に架かる大石橋。



大山街道を江戸方面へ。途中にある「大山街道ふるさと館」に立ち寄ってみたが、館内の見学者はおらず。



展示品も“地味”なもので特別なものはなかったが、二子の渡しに関する資料は興味を覚えた。



街道沿いにはよく利用する高津図書館がある。

敷地の一角には国木田独歩の碑があった。



多摩川沿いの二子神社脇にある岡本かの子文学碑。モニュメントは岡本太郎が、台座と築山は丹下健三によるもの。



強風の二子橋を何とか渡り、懐かしの兵庫島が見えてきた。



兵庫橋の下を流れるのは野川。釣りをした思い出も。



危うく遅刻しそうだったが13:45滑り込んだ！



奥村&熊坂さんは“宴”の準備。(男は見てるだけ)



青空の下、陽射しを浴びて早めの乾杯！



最後に佐藤繁さん登場。細くなったような？



全員揃い健康的な“宴”が始まった。



二子玉川駅横には楽天の本社がある。



ここで順番に本日の感想発表。母校に寄ったグループ、河口から歩いた人、昼にはもうアルコールが入った人もいた。



集中ウォークに限らず集合場所だけ決めておいて、各自自由に飲み物・ツミ持参の“野外宴会”も楽しいかも。



<楽しかった時間は秋の陽と共に釣瓶落とし！ 最後にマスクをとっての笑顔でハイ、チーズ！>

■兵庫島の由来■

南北朝時代、謀殺された新田義興の家来で壮絶な死を遂げた由良兵庫助の死体が、多摩川と野川の合流部にあるデルタ地帯の島に流れ着いたので、これに対して村人達は災いを恐れて兵庫助をこっそりとこの島に供養した。これが兵庫島の名の由来であるとされる。(現在は地続き)



兵庫橋を渡って島を後にする川崎組。長い影も一緒に・・・



野川の上流方向。風のせいかなこの日は水が澄んでいた。



あれ、帰りは随分とスリムになったような・・・(影のこと!)



歩きで帰る私以外は二子玉川駅へ。お疲れ様でした～

<今日の一言>

好天に恵まれて楽しい一日を過ごすことができました。帰りはまた二子橋を川崎側に渡り、二子新地駅前からショートカットをしたものの、車で通った時の記憶と歩きでは風景が違って見え、地元なのに些か迷ってしまったというオチが付きましたが、これ、もしかしたら「兵庫助」の祟りだったのかも・・・(怖)

END